

令和 6 年度第 1 回千代田区生物多様性推進会議

(開催要項)

1. 開催日時 令和 6 年 9 月 20 日 (金) 10 時 00 分～12 時 00 分

開催場所 千代田区役所 6 階 601会議室 ※WEB会議と会場の併用

2. 出席委員 (9 名)

亀山 章	東京農工大学 名誉教授
加藤 和弘	放送大学 副学長
玉井 史隆	公募区民 (在住)
荒井 忠行	公募区民 (在住)
竹内 和也	一般社団法人大丸有環境共生型まちづくり推進協会専務理事
吉瀬 ひとみ	三井住友海上火災保険株式会社 経営企画部 SX 推進チーム
伊藤 栄司	千代田区立お茶の水小学校長
青山 一彦	東京都環境局 自然環境部計画担当課長
川又 孝太郎	千代田区環境まちづくり部 ゼロカーボン推進技監

3. 欠席委員 (2 名)

須田 真一	東京大学総合研究博物館 研究事業協力者
森川 久	環境省自然環境局 皇居外苑管理事務所次長

4. 事務局 (委託者 6 名 受託者 2 名)

委託者：千代田区環境政策課

山崎崇 環境政策課長、今津靖和 企画調査係長、山浦優加 事業推進担当係長、
桐野あすか 公害指導係長、羽鳥友彦 エネルギー対策係長、
安田雅樹 ゼロカーボン推進担当係長

受託者： 有限会社ブラネット・コンサルティングネットワーク
高田大貴、松永張良

(議事次第)

1. 開会
2. 座長・副座長の選任、各委員自己紹介
3. 議題
 - (1) ちよだ生物多様性推進プランの事業計画について
 - (2) 生物多様性に関する各種イベントの実施報告について
 - (3) 令和6年度ちよだ生物多様性大賞の募集について
 - (4) その他
4. 閉会

(配布資料)

- ・ 令和6年度第1回次第
- ・ 第6期千代田区生物多様性推進会議委員名簿
- ・ (資料1) ちよだ生物多様性推進プラン事業計画
- ・ (資料2) 生物多様性イベント実施報告
- ・ (資料3) 令和6年度ちよだ生物多様性大賞の募集について
- ・ (資料4) レインガーデンへの助成について
- ・ (参考資料) 千代田区生物多様性推進会議設置要綱

(議事要旨)

1. 開会
 - ・ 各自配布の資料確認
 - ・ 千代田区生物多様性推進会議設置要綱を用い目的説明
 - ・ 本会議での意見は来年度以降取り入れ検討
 - ・ 委員の自己紹介

2. 議事

＜川又委員＞

国際的にゼロカーボンが議題にあがり、注目されている。

加えて、ネイチャーポジティブも国際的に注目されている。ネイチャーポジティブは2030年までに自然生態系の損失を食い止め、回復させていくことや自然保護地域の拡大、消費者や企業の行動変容を求めるもので、世界がこれを目標としている。千代田区としてもこれらを意識して取組みを行っていく。

(1) ちよだ生物多様性推進プランの事業計画について

<事務局>

千代田区の 2050 年の将来像は持続可能な自然共生の先進都市になっている、2030 年目標は千代田区ならではのネイチャーポジティブを実現することを目指す。千代田区が取り組む主な行動計画として、「皇居の緑を核とした生態系ネットワークの形成・強化」「自然共生社会を意識した行動の浸透」「自然を生かした多様な社会課題の解決」の 3 つを行動計画として検討している。

<事務局>

また、別紙の「ちよだ生物多様性推進プラン（事業計画）」を使って、各行動計画及びそれに伴う項目、それに対する取組み・計画を説明した。事業計画内の取組みや計画は環境政策課のみならず、様々な部署、関係団体と連携し、生物多様性を推進に取り組んでいく。区役所だけでなく、民間企業にも生物多様性の推進を図っていく。

<亀山委員>

本来は事業計画がどれほど実施してどのような実績が得られたのか報告があるが、年度初めである為それらの報告はない。事業計画について質問はあるか。

<加藤委員>

何をもって生態系ネットワークとするのか、こういった生物こういった環境を指標とするのか。障害物などを含めたネットワークの検討が必要。その土地にあった自然とはどのようなものなのか事前に決めておく必要がある。

水辺のモニタリング調査では、千代田区の河川の特徴（深くて緩やかな川）に合わせた調査方法を実施・検討すべき。

雨水枡は維持管理が大変ではないか。草や枯葉などで詰まらないのか。土の地面が残っていないのが生物多様性において重要な問題であるため、土の営みを利用した検討も必要だと感じた。

<事務局>

ネットワークにおける植栽について、在来種が基本であり、外来種の街路樹は問題だと感じている。推進プランで状態目標や数値目標は示している。

貯留槽や雨水枡などは出来るだけ設置していきたい。本来、雨水枡などは下水への負担を軽減させるものであるもので、レインガーデンのような地面に浸透しやすいものに変えてゆけば生物多様性に繋がると考えている。

<玉井委員>

意識改革という面で、2030年までにパンフレットやHPだけの告知で間に合うのか。ゴミを減らすことや自然を増やす活動などは伝わりにくいため、自然を守ろうという意識を要所要所で伝えることが必要。例えば、皇居でランニングしている人に目に付くようなチラシの設置を行えばよいのでは。

<事務局>

情報発信に関しては様々な取り組みを行っているが区民向けであり、来勤者に向けても発信できるようにしたい。企業などとタイアップで取り組みの情報発信を行えるようにしたい。「あっていいな」と思える自然を残し増やしていきたい。

<亀山委員>

歴史的な視点で自然を考えるべきだと思う。千代田区はとても歴史がある為、重要文化財的な建物には屋上緑化は控えるべき。歴史を意識しつつ本計画を進めていく必要がある。

(2) 生物多様性に関する各種イベントの実施報告について

委託者より別紙「生物多様性に関する各種イベントの実施報告について」の報告

<伊藤委員>

生物多様性のアプリのようなものをぜひ作成してほしい。アプリ内でどこにどのような生物がいるか、環境学習などの写真を見られると良いと感じた。また、QRコードですぐ飛べるようになると様々な情報発信になると感じた。

<事務局>

学校のタブレットは制限や許可など必要ないのか。

<伊藤委員>

基本的には教育委員会に許可を得る必要があるが、区作成のアプリなので必要がないと思う。

<事務局>

情報発信は区でも困難であるところでもいいアイデアがあればお聞きしたい。また、三井住友の環境への取り組みなども発信していけると良いなと感じている。

(3) 令和6年度ちよだ生物多様性大賞の募集について

委託者より別紙「令和6年度ちよだ生物多様性大賞の募集について」の説明

<荒井委員>

区内の教育機関へのチラシの配布をしているわりには応募が少ないのでは。過去の受賞者の取組みの情報をチラシに掲載すれば良いのでは。

<事務局>

詳細は掲載していないが、概要などは掲載している。

<玉井委員>

生物多様性に関する活動とは、どんな活動で応募すればいいのか、何をしているのか分からない。具体的な事例や枠組みを出すと応募へのハードルが下がるのでは。

<事務局>

チラシに表彰の対象例などイメージしやすい事例の掲載を検討する。

<事務局>

小学校の夏休みの自由研究のレベル程度で良いので、いい周知方法などがあれば教えて頂けると幸いだ。

<伊藤委員>

今小学校では夏休みの宿題の発表をしているので、1クラスに2～3人は生物についての自由研究を行っている生徒がいるため、小学校に周知すると応募が増えるのでは。夏休み前にチラシを配布し、小学校の締め切りを9月末にすると焦って応募するのでは。生物多様性の保全というタイトルでは難しい印象があるが、何でもいいのか。

<事務局>

昆虫、鳥、街路樹など何でもいい。クラスごとに賞みたいなのをしているのか。

<伊藤委員>

賞などはしていない。

<事務局>

小学校などにはどのようなアプローチが良いのか。

<伊藤委員>

もう一度今の時期に小学校にチラシを配布するのが良いと思う。各校の校長にメールを送っておくことはできる。

<玉井委員>

夏休みの宿題で各校の活動にアプローチするのも良いのでは。また、応募する形態を具体的に提示すると分かりやすいと思った。

<亀山委員>

生物多様性という言葉は小学生には難しいと思った。応募への入り口を分かりやすくするのが良いと思う。

(4) レインガーデンの助成について

委託者より別紙「レインガーデンへの助成について」の説明

<亀山委員>

レインガーデンの基準で「高い貯留浸透能力を持つ緑地であること。」とは緑地でないと助成はないのか。緑地とはどういったことを指すのか。

<事務局>

雨が降った時に水を貯めるところをレインガーデンとするので、千代田区ではレインガーデンを緑化一部として補助金を出す。

<亀山委員>

緑地はどの基準で緑地と判断するのか。

<事務局>

緑地は屋上緑化、壁面緑化、敷地内緑化があり、レインガーデンは敷地内緑化として適用される。

<亀山委員>

庭にレインガーデンを設置すると助成が適用されるのか。

<事務局>

基準に沿っていれば、助成の対象となる。

<事務局>

まだ始まったばかりなので、助成対象者はいない。千代田区では新築の建物には緑化指導を行っていて、その敷地内でもレインガーデンを設置していただければ補助金が出る。

<竹内委員>

敷地内でテストケースとして設置し、宣伝するのはありだと思った。

<事務局>

対象が中小企業であり、大企業は対象外である。

<吉瀬委員>

千代田区では、舗装面がほとんどであり、レインガーデンを設置するには舗装面のやり作業が発生し費用がかさむと考えられる。レインガーデンの費用補助は新規の開発なのか、再開発に対してなのか。また、予算規模に関してもどのくらいを想定しているのか。

<事務局>

基本的には、新規に設置したものを想定している。予算は2件程度を想定している。申請が多ければ補正予算が考えられる。

<事務局>

再開発のような大きい工事では、計画の中で出来るだけグリーンインフラを盛り込むようにまちづくりの計画課方から指導しているため補助という話ではない。また、道路の場合などでもグリーンインフラを活用して整備をしていく取組を考えている。建物を新築に建て替えるだけでなく、今ある緑地やそうでないところでもこれらの仕組みにしてもらえると補助する。対象もある為、補助すべき対象に補助していく。

<吉瀬委員>

レインガーデンモデルが敷地内にあるため、生物多様性の観点だけでなく、防災・減災の効果なども重視しているので、これからも取組みについて共有していただけるとありがたい。

<竹内委員>

助成対象経費が50%で、上限が50万円なので、今年度は100万円の予算措置を考えているのか。

<事務局>

その通りだ。

<竹内委員>

敷地内のちょっとしたところの開発や戸建ての庭などどのくらいの規模の申請があるのかテストケース的なサウディングの意味合いを持っているのか。

<事務局>

予算は、1m×10m幅をレインガーデンにすることを想定して予算を算出している。

<亀山委員>

千代田区は雨水浸透柵の補助はやっていないのか。

<事務局>

補助はやっていない。

3. 今後の予定

次の推進会議は2月頃を考えている。

次回の会議で議題にあげたい項目があれば連絡いただきたい。

以上